



## フジレース株式会社

カーテンレースやブラインド、寝具資材などを製造する相生町のフジレース(株)では、中野隆雄代表取締役を中心に、ラッセル編機を駆使した技術開発が日々行われている。

幼少期は農家で育ち、高校卒業後は和装織物の買継商に従事した中野代表。シリーズ帯のヒット商品を生むなど、豊富なアイデアや時流を読むセンスを発揮した。1960年に父が経営する中野レース工場に入社、63年に現フジレースの設立に携わると、インテリア展の視察のためヨーロッパを何度も訪れる中、編みレース技術の世界との格差を痛感したという。その中、ロンドンで美しく展示される日本の「和紙」をきっかけに、世界で認められる日本古来の天然素材に改めて注目し、他に類を見ない「オンリーワン商品」の開発に向け研究開発がスタートした。当時は社内外から冷遇されたが、30年近い研究を経て初めて製品化された「和紙ブラインド」は、「メイド・イン・ジャパン」の品質とデザイン、天然素材によるエコなイメージが評価され、国内外に広く普及するまでになった。現在、その特殊技術は寝具にも採用され活用の幅を広げている。

その他、編み技術の可能性を追求するフジレースでは、害獣から植物を守る植林ネットや防虫ネット、熱伝導が可能な医療用レース素材など、環境改善用資材、各種医療用資材、寝具・衣料品など幅広い分野でその技術力を発揮する。さらにその技術力は遥か宇宙にまで達し、人工衛星の外装の一部「サーマルブランケット」にも採用され、100℃を超える高温からマイナス100℃にもなる過酷な条件下で、フジレースの技術が宇宙開発を支えている。

また、インターンシップの受け入れなど、人材育成や就業支援を通じた業界の発展に貢献しつつ、「頭を使って先に動く」、「他がやらないことをやれば売れる」とさらなる意欲も見せる。「まだまだやりたいことがたくさんある」と、御年80歳を超える中野代表とフジレースの挑戦はこれからも続く。

オンリーワンの技術が産む  
未来を創造するインテリア